情報交換会＊意見交換まとめ（全体に共有したいことをまとめた内容のものです。）
県北会場（参加者54名　A～Lグループ）※Dグル―プは無し

テーマ①「協議体の進め方や内容について」
　・協議体のテーマや進行の工夫、活用方法　等

Aグループ
・生活支援コーディネーターとして地域を知るためにテーマごとにマップに落とし込み、協議体メンバーにも情報を落としてもらった。
・自分だけではできないことを自覚すること。
・話しを聞いてくれる人だけではなく、反対の意見を言ってくれる人も大事。
・最初から理想を求めない。やりながら協議体のカタチを変えていく。

Bグループ
・協議体の現状について（ミニデイサービスリーダーの集まりを2層協議体と位置づけている。/住民懇談会にサロンの代表者が参加し、交通や買い物をテーマに話し合いを行っている。/サロンの代表者が月1回集まって話し合っている）

Cグループ
・自治会、地区社協、包括、民生委員、まちづくり協議会を参集し開催。地域アンケートから課題抽出するも生活支援コーディネーター交代で中断。座談会形式にするなどの工夫。
・地域福祉推進委員会を協議体とした。区長、校長、老人クラブ、施設長など団体の長14名が集う。脚の問題、男性の引きこもりなど毎回テーマを決めて行う。
・脚の問題が深刻。協議体で市民バスに乗った。バス停までの脚がないことがわかる。住民乗り合わせ事業を取り入れようとしている。協議体委員は、区長、民生委員、高齢者、寺の住職。
・住民と地域振興会でワークショップ。30～50代で構成されている地域づくり委員会。地域で交流の場をつくり、定期的に開催。
・個別に協議体委員にヒアリングする。内容を忘れないように、熱量が冷めないようにしている。

Gグループ
・2層協議体の意見を吸い上げ、ガイドマップづくり。集いの場、見守りについて、宅配の情報を掲載。
・協議体委員には役付きの人ではなく、実際に現場で活躍している人に担ってもらっている。

Hグループ
・自然に話せるような工夫をして雰囲気づくりを大切にしている。
・テーマに合わせて流動的にメンバーを入れ替え。
・ネットに載っていない情報を聞き出す、書き出す。
・囲みながら話せる工夫（模造紙を使う）
・会議だけでなく、イベントや視察などを取り入れる。

Iグループ
・固定したメンバーではなく、流動的にしている。

Jグループ
・1～3層までの協議体がある。1層：行政、2層：福祉活動推進員研修会、3層：行政区
・1層がごみ出し支援についてテーマをくれ、2層で話し合っている。（各地域で起きていることを知り、1層がまとめる）
・災害やつながりの大切さをテーマに勉強会を実施

テーマ②「関係機関との連携について」
　・他事業や各種団体、他部局、民間企業との連携　等

Cグループ
・公民館、包括、支え合い推進員との連携⇒年7回程度。年間通してフレイルや介護予防について講座を開く。脚の問題でターゲット層の参加が少ない。
・中学校の先生が協議体に参加⇒「生徒をぜひ使ってほしい」とのことで、サロンに中学生を呼ぶこととなった。
・小学生が防犯マップを作成。住民と一緒に地域を歩く。子どもたちのお茶っこ会の参加。
・協議体の中で各団体の紹介を行う。知らなかった地域の資源を把握することができる。
・民協など他の会議でも関係機関と情報共有する。

Eグループ
・包括⇔コーディネーターが情報共有し、地域につないでいけるように一緒に訪問してフォローしている。区長さんに話しを伺う。
・月1回のケアマネ情報交換会にコーディネーターが参加。
・買い物に行けない課題の実態把握⇒コンビニの移動販売につなげた
・除雪の課題⇒区長、ボランティア事業所と連携
・お役立ちガイドブック（ボランティアや団体情報が掲載）をコーディネーターが作成。地区のリーダー格の方へ配布。
・自立支援型のケア会議にコーディネーターが参加している。

Fグループ
・1層2層の連携が今後の課題
・ケアマネや事業所に生活支援コーディネーターについて理解を促したい。

Gグループ
・協議体委員に新聞屋がいて、コミュニティ新聞を月1回作成して折り込んでくれている。
・民間企業も実は地域貢献したいと思っている。

Kグループ
・地域に根差した職種の方（例：警察官、郵便局員）にも協議体のメンバーに加わってもらうことがいいと思った。

Lグループ
・行政、社協、トヨタ、交通会社との連携によるデマンド交通の実施。
・何度も脚を運び関係性を築く。

テーマ③「地域資源とのマッチングについて」
　・支援ニーズと多様な活動のマッチングの実践　等

Gグループ
・交通の便が悪い⇒市民バスやデマンドがよくわからない⇒協議体で実際に乗ってみよう⇒楽しい⇒移動サロンにつながった。

Hグループ
・地域を知るために出歩き自分を知ってもらう。イベントに顔を出す。

テーマ④「今、力を入れて取り組んでいること」
・協議体でこんな取組をしている　・集めた地域資源を一覧にして、関係者に周知している　・今後の展望　等

Aグループ
・社会参加できない方を把握して外出の機会をつくる⇒自分が何かをするより、地域を知ってる方に動いてもらう。
・福祉体験学習⇒生徒に「高齢者」＝「弱者」ではなく、経験者であることや学ぶことが多いことといった印象を与えられるような働きかけ。
・サロンがある地区、ない地区がある。「サロンへ行きたくない」は、無理に誘わない。集いの場だけを大切にするのではなく、地域全体を大事にする。
・道の駅で男性の居場所づくり。
・サロン交流会⇒アンケートをとって活動の可視化。
・これまで社協として地域に出る機会が少なかった。地区の行事に顔を出し、まずは覚えてもらうことに力を入れている。

Eグループ
・情報発信に力を入れている。コーディネーターが見つけて発信することでモチベーションアップになる。
・地域包括ケアについて理解を得るため、マンガ、DVDを作成した。

Fグループ
・地域資源の把握
・結果を出すことだけではなく、進め方を大切にしている。

Jグループ
・2層協議体で次年度のあり方を相談し、課題等を挙げて、地域に持ち帰ることができる内容に取り組みたい。
・地域と社協で取り組む活動が被っていることがあるので、統一して連携していきたい。

Lグループ
・サロン未開催地区でのノルディックウォーク